



# 四仙騎獣八稜鏡

しせんぎじゅうはちりょうきょう

四仙騎獣八稜鏡は、外形が花びらの

ような形をした 11cm 前後の

大きさの鏡です。背面は、

とつ凸線を円形に巡ら

せて外区と内区

とに分け、外

区には蝶と花

を配し、内区

には獣（獅子

ないし麒麟）や

鳥（鳳凰ないし鶴）

に乗った人物を表現し

ています。青銅で造られてい

て、同じ文様の鏡が正倉院（南倉）に

収蔵されていることから、とても貴重

な品物であったと考えること

ができます。

この鏡は長岡京の

南東部にあたる

左京七条二坊

七町の宅地か

ら見つかった

もので、建物

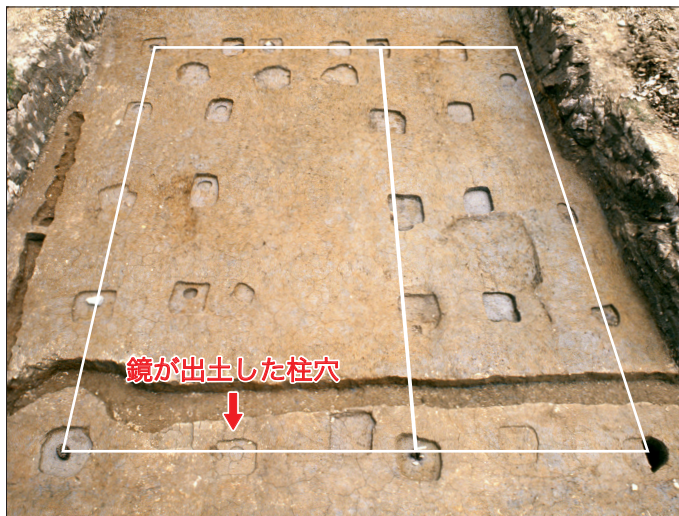
の柱穴内に埋め

られていました。

おそらく、建物を建て

る際のお祭りに使用されたも

のと想像することができそうです。



鏡が見つかった掘立柱建物



出土した時のようす  
(鏡面を上に向けて埋めています)



長岡京市埋蔵文化財センター設立 40 周年記念事業・2022 缶バッジプレゼント企画

